

人間らしく生きるためには「元氣・感動・仲間・成長」が必要

スポーツは文化として、医療性と芸術性、コミュニケーション性、教育性を通じて、人間に豊かさを提供してくれるわけですが、私はこれをもう少しわかりやすく表現できないかと考えて、次のように言語化しています。

医療は「元氣」、芸術は「感動」、コミュニケーションは「仲間」、そして教育は「成長」というキーワードです。この「元氣・感動・仲間・成長」こそ人間が人間らしく生きるための心のビタミンだと思っています。心のビタミンなのでそれを感じることが人間らしさを保ち、人生の質を向上させることになるのです。

想像してみてください。元氣がなく、感動がなく、仲間もおらず、成長のない人生を。どうみてもクオリティ・オブ・ライフが極めて低い人生になるのではないでしょうか？

「元氣・感動・仲間・成長」は、私たちの人生にとって必須の、心に感じるべきものなのだということなのです。

スポーツは文化であるということは、私流のいい方をすれば、スポーツとは「元氣・感動・仲間・成長」を感じ、そのことによつて心を豊かにし、クオリティ・オブ・ライフを高めていく人間の営みだということです。

したがって、スポーツは日本での体育のように「する」に押し込まれてしまうのではなく、「観る」「支える」「読む」「聴く」「話す」など、さまざまに幅広くあってもよく、そこに「元氣・感動・仲間・成長」が存在していれば、それらはすべて文化としてのスポーツなのです。

一世を風靡した井上雄彦先生のバスケットボール漫画『スラムダンク』は、「読むスポーツ」です。累計売上部数が1億部以上といわれるこの漫画が人気であり続けるのは、何回読んでも、そこに「元氣・感動・仲間・成長」を感じる素材があるからなのです。